

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770901516
法人名	医療法人啓友会
事業所名	グループホーム めぐみ2
訪問調査日	平成 21 年 9 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 9 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年9月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2770901516
法人名	医療法人 啓友会
事業所名	グループホーム めぐみ2
所在地	大阪府高槻市安岡寺町1丁目36番8号 (電話) 072-687-8611

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年9月9日	評価確定日	平成21年10月9日

【情報提供票より】(21年7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	2.45人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	74,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,600 円		

(4) 利用者の概要(7月28日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	啓友クリニック、みどりヶ丘病院、近森歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR高槻駅から高槻市バスで約15分安岡寺東バス停より徒歩3分の緑が多い静かな住宅街にある。法人代表者は地元で長年地域医療に携わり、平成11年3階建ての幼稚園を買収して改修し、平成12年4月に医療と介護が連携した複合施設(有床診療所、デイケア、ショートステイ、グループホームめぐみ)を開設した。平成15年4月同敷地内の奥に1階を駐車スペースにした2階建てを新築してグループホームめぐみ2を開設した。介護主任は平成11年3月に入社し、めぐみ2の開設に関わり意欲的に業務に取り組んでいる。多数の常勤職員がデイサービスやショートステイとの兼務で利用者に信頼され、医療施設併設により利用者の安心感がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①同業者との交流を通じた向上②入浴を楽しむことができる支援、が改善課題である。②は改善されていたが、①は市内に同業者の連絡会がなく近隣同業者との交流もない。市担当者へ働きかけグループホーム連絡会を立ち上げ交流し、情報交換をしてサービスの質を向上させていく取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員の意見を聞きながら介護主任が取り纏めた。評価を実施する意義を正しく理解して、全職員が参加して自己評価を行い具体的な改善に取り組むことが期待される。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族、理事長、管理者、職員が出席して法人の2つのグループホームが合同で3ヶ月に1回開催している。地域を代表する住民の欠席が多く見られ、自治会に加入して自治会と密接な関係を築き、メンバーの増員を要請して2ヶ月に1回開催することが望まれる</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、担当者が利用者の状態や預り金、行事の予定やお知らせを、一人づつ手書きして郵送している。家族別の交換日記を作成し、家族の来訪時に積極的に声をかけて見て貰い、意見や要望を聞いて運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>法人の合同行事には地域の人達や、近くの幼稚園児を招いて交流している。常勤職員は兼務により法人が併設するデイケアに通う地域の方々や顔なじみになっており、合同行事は常勤兼務職員が参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症や身体の障害があっても、人生の最後をしめくくるのにふさわしい場所として生き生きとした喜びを感じ、その人らしい生活を維持できるように援助していく。そのために、心身の機能低下を予防し、なじみの関係づくりをサポートし、地域社会への参加を働きかけていく。」を理念とする。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム入口掲示板や業務日誌に貼り付け、日々意識して業務に取り組み、職員会議で確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の行事に地域の人たちや、近くの幼稚園児を招いて交流している。法人の職員は兼務により、併設のデイケアに通う地域の方々と顔なじみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員の意見を聞きながら介護主任が取り纏めた。評価を実施する意義を理解して、職員全員が参加して評価を見直し改善に繋げる体制にない。評価は入口に置いてあり、来訪者が自由に閲覧できる	○	評価は自己評価が中心であり、自己評価を実施する意義を正しく理解して全職員が参加して自己評価を行ない、具体的な改善に取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族、理事長、管理者、職員等が出席して、3ヶ月に1回開催している。地域を代表する住民の欠席が多く、地域の協力を得る取り組みが不十分である。	○	自治会に加入して、自治会長に要請し交替して出席して貰えるようメンバーの増員を図り、2ヶ月に1回開催して、地域との交流を深めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者を訪れ、ホームの運営についての報告や相談をしている。市の介護相談員を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者が利用者の状態や預り金、行事の予定やお知らせなどを一人ずつ手書きして郵送している。家族別の交換日記を作成し、来訪時に積極的に声をかけて見て貰い、意見や要望を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪時に意見や要望を聞いて記録し、職員会議で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員が多く、兼務により利用者との交流を大切に、異動によるダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内合同の年間研修計画を立て、毎月1回開催して報告書を作成し共有している。外部研修は、介護技術関連の講座や資格取得講座、全国の介護事業者連絡会へ職員が参加出来るよう、交通費、受講料、勤務調整などの支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に同業者は19ヶ所あるが事業者連絡会がない。	○	グループホーム連絡会を立ち上げるよう、市担当者への働きかけを期待したい。機会をつくり近隣の同業者と交流し情報交換をする取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のデイサービスやショートステイを利用されていた方が殆どで、職員の兼務により既に顔なじみであり、利用者や家族が安心して納得して利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人らしい生活を維持できるよう援助し、心身の機能低下を防止し、出来ることで手伝って貰いながら、日々を一緒に過ごす家族のように支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から以前の暮らし方の情報を得て日々声かけをしながら意向の把握に努めている。利用者の状態を記録して職員が共有し、利用者の視点に立って対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートや利用者や家族からの情報をもとに課題や要望を聞いて、サービス担当者会議で検討し、医師の意見も取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は原則6ヶ月としているが、モニタリング、カンファレンスを行い、状態に変化が生じた場合は、利用者と家族、医師と話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療的な相談に対応し、家族や利用者の状態や要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし定期的な往診がある。以前からの医療機関の継続受診は家族が同行できない場合は支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に重要事項説明書により、状態に変化が生じた場合、家族の要望に応じて話し合い、可能な限り看取りまで援助する方針を説明しているが、利用者や家族との意思確認の文書が整備されていない。	○	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用者や家族に説明し同意書を得ておくことが望まれる。重度化した場合のガイドラインを定め、利用者、家族、職員、かかりつけ医と方針を共有しておくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修や職員会議で利用者への声かけや対応について、人間としての誇りやプライバシーを損ねることがないように徹底を図っている。個人情報の保護の規定を定め慎重な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や状態に配慮しながら、一人ひとりのペースに合わせて希望に沿った過ごし方ができるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の管理栄養士の献立により、法人内施設全体に委託業者による食事が提供されている。半数の利用者がADLの低下で食事介助に時間がかかり、利用者の食事が終了後に職員が同じ食事を採っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルチェックを行い、体調を確認して週3回を目途に入浴している。随時シャワー浴や足湯でも対応している。状態により本館1階デイサービスの機械浴も利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみなどの出来ることをする張り合い、折り紙、ぬり絵などの楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や近くのスーパーへの買物、年間行事として車で、花見や攝津峡に出かけている。ADLが低下し年々参加者が減少している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していない。本館への通路になっているので自由に出入りが出来る。外階段は転落の恐れがあるため施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを整備し、消防署の指導で年1回法人合同の避難訓練を実施している。昼夜を問わず災害時に避難出来るよう利用者が参加した避難訓練を実施し、地域へ避難協力を得る働きかけが欲しい。	○	年2回の避難訓練が望まれる。利用者が何時でも避難出来るよう、自治会に要請して、利用者、職員、地域住民が参加した避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し不足のないよう気をつけ、食事の形態、水分にとろみをつけるなどで利用者の状態に応じた工夫をしている。栄養バランスは法人の管理栄養士により管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は手狭で2つの食卓だけでゆとりがない。本館2階とつながる空中通路の入口にベランダを設け避難場所を確保している。、入口から続く廊下に椅子を4脚並べて寛げる場所を確保している。ホームは駐車場の上部にあり、田んぼや竹藪が見え涼しい風が吹き抜ける。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、横長のプレートの半分に部屋名の花の名前と絵が、半分に利用者の氏名が表示されている。利用者は使い慣れた家具を持ち込み写真や小物などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。		